

方法書について環境保全の見地からの意見を有する者からの意見の写し

環境影響評価方法書の公告・縦覧および意見募集について

公 告 日	:	平成22年11月4日（木）
縦 覧 期 間	:	平成22年11月4日（木）から平成22年12月3日（金）
縦 覧 場 所	:	長野県環境部自然保護課、上伊那地方事務所環境課
	:	伊那市役所市民生活部生活環境課
	:	伊那市高遠町総合支所市民生活課
	:	伊那市長谷総合支所市民生活課
	:	伊那市役所の支所（富県、美篤、手良、東春近、西箕輪、西春近）
	:	上伊那広域連合環境衛生課
意見募集期間	:	平成22年11月4日（木）から平成22年12月17日（金）
意見提出先	:	上伊那広域連合環境衛生課
意見書の提出人数	:	30人

特記事項

- ① 方法書の目次に沿って、意見者ごとにお答えします。意見者は仮称アから50音順にカタカナ表示で記載しています。
- ② 意見書に対するお答えは、基本的に上伊那広域連合が行っております。

第1章 事業計画の概要

項目	頁	意見者	意見の内容
1 事業の目的及び必要性	1	キ	ごみを広域で処理することに対する疑問 ・広域各地はごみの減量化につとめその成果を上げつつある。その流れに逆行しごみを大量に必要とする大型ごみ焼却場を建設するメリットは何か？ ・ごみ運搬車両の往来による沿線住民への排ガス公害による健康不安・被害を生ずる危険まで冒してまでして建設することに疑問を持つ。 ・広域各地で単独処理した方が遥かに安上がりでリスクも低いのではなかろうか。
2 事業の目的及び必要性	1	チ	現在、ごみの減量、分別に市民達は努力しているときに、大型のごみ焼却場を建設することの意味がよくわかりません。 ・焼却炉の様式によっては大量のごみが必要になってしまったりはしないのですか？ ・ごみの処分というのは、とても大事なことだと思いますが、近くに住んでいる住人達の生活を不安にまで、大型の施設は必要ないと思います。 ・住民にとって不安のない施設にするようお願いします。
3 最終候補地決定の経過	2	ク	新ゴミ処理施設建設予定地は、背後に高い山があり、低地であることから、排ガスは美篤側に多く来ることが考えられる。 ・この時代にあって応分の負担はやむを得ないが、著しく公平さを欠くものである。こうした用地選定は到底納得できるものではない。 (健康被害は1例もないという因果関係の立証は困難であるし、被害は100年、200年と長い時間がたたないとわからない) ・上伊那全体のゴミが来ることから、美篤が上伊那全体の犠牲となっていると考えるべきである。 ・こうしたことに深く思いをいたしていただき、施設について安価にと考えるのではなく、健康、環境を最優先すべきである。 ・環境影響評価は、そこまでしなくてもよいのではというところまでやっていただきたい。(絶対に必要ないと言い切れるならよいですが)
4 最終候補地決定の経過	2	ス	・伊那市の防災マップによると、手良中坪から南方へ向けて活断層が見受けられます。その先は焼却場建築予定地にもぐり込んでいます。 ・予想される東海地震の発生時に安全といえるでしょうか。
5 最終候補地決定の経過	2	ハ	このような施設を作る場合、回りが広く開けており、そのような場所で高い煙突から有害な物質を含む煙をできるだけ広く拡散させてしまうというのが基本的な考え方だと思う。 ・今回の建設予定地は、回りが複雑な地形であり、またすぐ横は地すべり危険地帯でもあり、なぜこのような場所が建設予定地に選定されたのか、全く理解できない。
6 最終候補地決定の経過	2	ス	新ゴミ焼却場選定委員会は、この候補地の選定にあたって、選定項目の最重要項目である。風向と住民の意向の項目をなぜか除外したまま最終決定をし解散してしまいました。 (イ) 風向動向の調査資料は伊那市誌に昭和40年代に調査した資料が載せられているが、なぜ之を無視したのでしょうか。 (ロ) 「川下り米」は伊那市がブランド米として売り出す計画が現白鳥市長(前小坂市長も)が発言されていますが、選定委員会では之が風評被害が心配されると位置付けられていたが、結果的に三峯川流域＝川下り米の生産地のど真中に焼却場を設置するとしたのはなぜか？ ・地域住民、特に之が生産者の意向調査を行う必要があると思います。いかがでしょうか。
7 対象事業実施区域及び調査範囲	2	ホ	1.6.2 調査範囲 ・排出ガスの最大着地濃度出現距離を2kmと予測し、調査範囲を概ね2倍の4kmとした理由は。
8 主要設備等の概要	6	ト	・予定地はすり鉢状の地形で煙が滞留すると聞く。煙が拡散するので安全という煙突の高さはどのように決めるのでしょうか。
9 主要設備等の概要	6	ホ	・排水は処理後再利用となっているが、用地選定委員会では地下水を200t/日使用することになっていた。全量を大気中に放出するということになるが。
10 処理対象ごみ	6	ホ	表1.6-3 処理対象ごみ ・149t/日の内訳、それぞれのごみの量を示す。
11 処理方式	6～7	ス	ゴミの処理行政について、伊那市では現在ゴミの分別収集が定着してきています。 ・この方式がよりっていきされていくと、焼却ゴミが減少してしまい、新ゴミ処理方式の計画されている高温巨大な焼却炉とは矛盾しないでしょうか。
12 処理方式	6～7	ス	新ゴミ処理方式で計画されているとする八乙女地区に埋立てられている不燃ゴミを掘り起して焼却する予定という、ならばおのづと高温な炉が必要不可欠となると思います。 ・この炉の熱原であるコークスは高騰していて採算が心配されます。 ・なおどんな物が埋められているかわからない物の燃焼ガス(猛毒)の発生が心配されます。
13 処理方式	6～7	キ	炉の形式を明らかにすること ・炉の形式が明らかにならねば燃焼温度による気化や拡散の状況の予測は出来ない。
14 処理方式	6～7	ネ	炉の種類を選定よりも前にアセスメントの方法書を作成すること事態意味のないことではないか。 ・焼却方法、温度などによって、生成される化学物質も異なり、影響も変わって来るはずである。
15 計画値	7	セ	・ダイオキシン類・重金属類について、国の基準値以下のきびしい基準で検討してほしい。
16 計画値	7	ホ	表1.6-4 排ガスに関する計画値 ・計画値はどのように定めたのか、その根拠は。

第2章 地域の概況

	項目	頁	意見者	意見の内容
1	全般		ホ	引用した図表などをそのまま載せるのではなく、それらから何がよみとれるか、調査範囲を中心に解説する。
2	全般		ホ	全体として調査範囲についての記述が少ない。地元の文献調査が行なわれていないのでは。
3	全般		ホ	出典としてホームページは不適當である。二次資料であり、時間がたてばアップされなくなり、参照できなくなる。
4	全般		ホ	対象事業実施区域について水象、地象の記述がない。地形、水害の歴史は重要である。
5	全般		ホ	調査範囲における健康データを収集しておく必要はないか。
6	地象の状況	74	コ	過去の三峰川、新山川の災害の歴史を郷土史家に調査してもらおう。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
1	全般		ホ	調査予定地点 ・各評価項目ごとに調査予定地点が示されているが、これらを一覧表にまとめると相互の関連が理解しやすい。 ・また、調査予定地点の位置がわかるように、名称、住所、緯度、経度、標高を示して欲しい。
2	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	オ	・川の水については農業にとっても大切なものであり、大切にしたいものなので「心配ない」では「心配」です。もっと確証がほしい。
3	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	ケ	上大島区には、井戸水を生活用水としている世帯が多い。市・広域連合の見解によれば、三峰川を挟んだ反対側の地点に上大島区はあるため地下掘削時の地下水汚濁は及ばず地下水調査は必要ないとしているが、仮に処理施設稼働後に排出される排気ガスに含まれる有害物質の拡散が長期間わたり、地中に蓄積されることによる水質汚濁・汚染が予想される。特に上大島区は通年南西風の風下に当たる三峰川筋の低地に位置することから堆積の割合が高く心配される。 ・その観点から上大島地域交流センター付近に水質の調査地点を設ける必要があると思う。
4	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	ツ	環境影響評価項目で表3.1-7(2)の、水質に関して評価項目がない。 ・クローズドシステムで過去の事例でも汚染の実態はない、ということだったが、雨水や蒸気は汚染されていないのか。 ・説明会において、広域連合側からは、雨の調査は考慮に入れない、という説明だったが、それはどうしてなのか。 ・川下は川下り米として有名な水田もあり、伊那市もそれをアピールしていく、と普段から広報などに書いているが、その配慮が感じられない。 ・土壌・水質の汚染には特に気を配って欲しい。現状の状態を把握するためにも、ぜひこの項目も調べて欲しい。
5	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	ト	地下水の重金属汚染について調べる項目がない。 ・伊那市は川下り米をブランド化しようとしているが、土壌・水質の汚染が心配。現状を把握するためにも、ぜひ調査して欲しい。
6	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	へ	三峰川は伊那市の誇り「川下り米」の水源。大切な大切な市民の水源です。 ・近辺（新山）にも大変美味しいお米を育てている方もいらっしゃいます（以前新聞で賞を取った方の記事がありました。）。 ・水源に影響が出ないのか？少しでも影響がでるおそれのある場合は、建設予定を白紙にしてください。
7	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	ネ	高遠・長谷などは近くの山からの湧水を水源とする上水道が多い。 ・あらかじめ水質の調査をすべきではないか。59mの排気筒からは、十分に届く範囲に水源が数多くある。 ・気化した重金属が飛散する可能性も十分に考えられる。これらは多くが分解されず蓄積されるものである。
8	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	134	サ	方法書 P134(10) 地形・地質について、「地形・地質についてはボーリング調査等で地質等を確認する」となっています。 ・私が調査したところ、天竜川上流事務所作成の地質図（昭和57年発行、大鹿）では、富県上新山、地質断層があります。 ・また、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター発行の「市野瀬」の地質図（昭和58年発行）には、上新山から新山川河口に向かって断層があります。また、その東側には馬越断層があります。この二つの断層の北側には、伊那市の防災マップ（平成19年3月発行）にある手良の活断層があります。この新山から高遠・手良へかけては、領家花崗岩類という同じ地質構造が続いています。そのため、今回の候補地の真下には、活断層がある可能性があるのではないかと思います。 ・私は、候補地にごみ処理施設を建設した場合、地盤も河川の合流地点であり礫や砂・泥が堆積しているものと思われるので、「活断層の有無」や「地盤の強度」を、環境影響評価で調査するべきと考えます。 ・なぜなら、建物が直下地震で壊れた場合に、周辺の田んぼや川・道路に被害が及ぶものと思います。
9	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	134	ツ	環境影響評価項目表3.1-10で地盤沈下や地形・地質の項目が予定されていないのはなぜか。 ・予定地のすぐ上には地滑り危険地帯にもなっている場所であり、この項目はぜひ調べて欲しい。
10	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ア	・予定地は平坦でないため地形にあったアセスを実施して下さい。
11	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	セ	・気象協会はマニュアルに沿った調査のみでなく 天伯社付近の地形に見合ったアセスをしてほしい。
12	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	カ	観測地点を増やした、という事だが偏った測定地だけに平均値は取れないのではないかと？ ・国の基準に乗っとり半径4kmの範囲で、東西南北同数の測定地が必要。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
13	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ク	・施設稼働後にも今回の調査地点で同一物質について調べ、稼働後、稼働前の結果を公表していただきたい。
14	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ア	・水銀・鉛・カドミウム等重金属についての予測調査をして下さい。他施設のデータで予測できるので、参考にして実施して下さい。又建設後も継続して調査して下さい。
15	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ウ	・重金属について似ている条件下にすでに在る施設のデータに基づいて予測値を出してほしい。
16	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	重金属の現況調査を厳密に行うこと ・空気中・流水・地下水・水道水源・土壌について調べる。調査地域は美篤・高遠・長谷・手良・東春近。
17	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	へ	・環境調査は希望する地区の全ての場所でやるべきではないでしょうか？一般的に煙突から出る煙が地上に降りるのは2キロ先がもっとも影響が出やすいと書いています。
18	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	タ	重金属について ・空気中、流水、地下水、水道水源、土壌について長谷や高遠、美篤、手良、富県など2 km～4 kmまでの所はしっかり調査をしていただきたい。 (保育園、小学校、中学校、高校があるため)
19	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ソ	・気象、重金属等の調査地点は、できる限り増やしていただきたい。 (市内全集落を気象調査、重金属の調査は長谷、高遠、手良、富県、春近、美篤周辺の各集落)
20	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	予備調査の範囲を半径4 kmとしてあるが、この範囲に入る地区は美篤全区と高遠・長谷・手良・富県・美原となる。 ・これらの区を対象に気象・植物・哺乳類・両生類・は虫類等を調査の対象とするよう配慮してほしい。できれば専門家の集団を組織してより正確な調査をしてほしい。
21	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	・調査・集約・発表の各部門に市民の代表が加わること。 ・重点調査対象の地域に美篤・高遠・長谷も加えるべきである。我々の自主アセスではこの地は甚大な影響を受けることが分かっている。 ・高遠・長谷両地区の上下水道の水源は森林の湧き水・沢水を利用している。煤煙は森林によって補足されることが知られているこの地域の現況を掌握しておかなければならないと考える。
22	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ハ	・環境アセスをやって問題のある結果が出れば対処すると言っているが、色々な調査でどのような結果が出ればどういう対処をするのか提示してもらいたい。 ・また、数値は平均ではなく、生データを提示してもらいたい。
23	大気質	142～148	イ	調査範囲が半径2キロ（概ね）となっているが自然環境はより広範囲に影響を受けると思います。雨により風により地下水大気は変化します。とうてい2 kmで納るものとは思えません。 ・より広い範囲（とくに子供達のいる場所や、田畑のある場所などを主に）調査し、後に取り返しのつかないという後悔の残らないものにして頂きたいと思えます。
24	大気質	142～148	ウ	・最大着地はん囲を2 kmと単純にはできないと思われる。地形風向を考慮した方法を考えてほしい。
25	大気質	142～148	ク	・地上気象は、美篤側は2地点だけで把握できるか心配であり、もっと増やしていただきたい。 ・また、上層気象は1地点だけであるが、排ガスの拡散を予測するため調査するものであると思うので、もっと多くの地点で行っていただきたい。
26	大気質	142～148	ケ	・段丘の下に滞留が起きていることを地区住民は生活実感としてもって居るので段丘の下（上大島区下の段）に風向き、風速等の気象を調べる調査地点が必要と思うがどうだろうか。方法書の準備協議で何回か申し入れをして居ることでもあるので是非、上大島地域交流センター付近に調査地点を設定してほしい。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
27	大気質	142～148	ク	・調査地点を素案より増やしていただいた点は評価するが、環境大気は美篤は3地点であり、少なくとも上、中、下段にそれぞれ1地点ふやしていただきたい。 ・また、⑦⑨調査地点はダイオキシン類だけの調査なので、これらの地点でも二酸化いおう、二酸化窒素、塩化水素等全ての有害物質を加えて調査していただきたい。
28	大気質	142～148	キ	・気象の調査地点を市内全地域を調査対象とする。
29	大気質	142～148	ト	・大気質汚染の調査地点・回数が少なすぎるのではないか。
30	大気質	142～148	ナ	・実際に59メートルの高さから何かをとばしてみしてほしい。それがどこにたまるのか、それがとても重要と思います。
31	大気質	142～148	エ	・地形、気象、風向 考慮の時、平たん地のデータでなく、河川、山があることを入れたデータを示してほしい。
32	大気質	142～148	コ	・高遠、長谷は最も被害の及ぶところと思われる単なる同心円調査ではなく、地形により調査地点を設定すること。
33	大気質	142～148	ツ	① 大気質汚染の調査地点・回数が少なすぎるのではないか。予定地はすり鉢状の地で、場所によって数値が大きく異なると考えられる。 ・もっと地点を大幅に増やして調べて欲しい。 ・周囲の風向きなどに熟知している、住民の自主アセスも取り入れて欲しい。 ・また、大気質が地面に落ちてそれがどうなっていくか、蓄積という面での調査もして欲しい。ダイオキシンは高温で処理をしても、外気に排出されて冷やされればまた再合成する物質であり、継続した調査が必要と考える。
34	大気質	142～148	サ	P142 大気質の調査について、方法書では、ダイオキシン類の調査は、全項目調査が5ヶ所、ダイオキシン類のみが2ヶ所となっています。 ・私は、① 手良地区中坪公民館 ② 高遠小学校 ③ 新山小学校 の3地点もダイオキシン類の調査をするべきと考えます。 なぜなら、候補地の風向きは、一定しておらず、煙突は高さ59mもありますので、排ガスは広範に広がると思われます。 手良地区中坪には背面に山があります。また、風は高遠市街地方面へも、新山の山沿いに向けても吹いています。 また、学校や公民館では、過去に除草剤を使用しているところもあります。そのため、環境影響を評価するには、事前に現況を調査しておくべきと考えます。
35	大気質	142～148	ヒ	大気質調査地点について、少なすぎると思われます。 ・風向きを考慮して同一方向2地点(遠・近)の大気質の現状をきちんと把握してください。 ・候補地から3～4kにあたる富県小学校周辺、美篤青島、手良小学校周辺、高遠町、上新山には新たな調査地点の設置をお願いします。
36	大気質	142～148	フ	・方法書144ページに大気質、気象の調査地点が記されているが、近隣の手良地区は年間を通して南風が多く、背面に山があるので、住民の行政単位でもある中坪地区へ調査地点を設ける。
37	大気質	142～148	タ	予定地周辺は平地でなく、高低差の大きい所なので一般的な調査というよりも、もっと複雑な地形に関する調査が必要ではないかと感じます。 ・最低今予定されているよりも3カ所以上の地上気象をしていただき、安心だとはっきりと思えるものが知りたい。
38	大気質	142～148	チ	大気質の調査 ・ダイオキシン類の調査は子ども達の長い時間すごす場所であるところを調査地点として加えてください。高遠小学校など、そのほかも。 ・さまざまな気象条件により想定以上に広範囲に影響を及ぼす可能性を考えて特に子ども達の日常的にいる場を詳しく調査して欲しいです。
39	大気質	142～148	セ	地形的に山付の複雑地形で滞留しやすい地形で、このような施設を建てるのに適地かどうかということで大変気になっている。 ・候補地選定において、気象条件をはずしていたので大気質・気象条件をしっかりと調査していただきたい。風向・風速の地点を3～4倍増やして、複雑地形の中で風向・風速などにより変化する、滞留・対流の変化がよくわかるように調査してほしい。大気中でダイオキシン、重金属類が希釈されずに滞留しないだろうか。不安である。 ※滞留せず安全のためには希釈されることが大切といわれるが 希釈されやすい地形かがきちんとわかる調査をするためにも調査地点を大幅に増やす。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

項目	頁	意見者	意見の内容
40 大気質	142～148	ノ	<p>当地区は馬蹄形の山麓（高低差650m）と段丘（60m2段）のある複雑な地形であり、排気ガス中の汚染物質・浮遊粒子状物質等の滞留・蓄積が懸念されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこで、大気質予測の基となる地上気象調査箇所を増やしていただきたい。 新山地区：最上部（予定地から5km主風向・逆）理由：馬蹄形の洞地形であり滞留の可能性がある 美篤地区：段丘の下（予定地から600m主風向）理由：段丘下へ巻き込む気流が見受けられる。 <p>強化する理由：方法書1.5最終候補地決定の経過で、全く触れられていないことですが、気流の滞留は用地選定段階から地元住民が最も危惧していた点でしたが「後でやるから」という理由で用地選定の評価項目から気象大気質だけが削除され、その結果選ばれたのが予定地です。従ってこのアセスにおいて最も重点的に調査し住民の心配を払拭すべき項目で、この問題で行政の誠意ある対応なしには住民の安心・信頼は望めないと思います。それこそアセスの本旨であると思います。</p>
41 大気質	142～148	ホ	<p>気象現地調査地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設予定地周囲の地形は複雑である。三峰川対岸の北側の美篤地区は段丘になっており、弱い南風や逆転層が発生したときは段丘の下側に空気が滞留する、西風のときは三峰川に沿って高遠の方向に流れ、北風のときは新山の谷筋に吸い込まれるようになっていく現象がみられる。これらの気象の状況を図3.2-2の予定地点における調査で十分把握できるか疑問である。箇所の追加が難しければ位置を再検討してはどうか。
42 大気質	142～148	テ	<ul style="list-style-type: none"> ・大気質の測定地の数が少なすぎると思う。もっと増やして欲しい。これまでの住民の自主アセスにより風向き調査では、建設予定地の風向きは高遠、新山方面に多くいく、という報告がされていた。将来的な予測という面での現状把握としても、この地域の調査地点は入れて欲しい。 ・また、調査地域を半径約4kmに設定しているのに、アセスメント実施同意を予定地近くの2区に限定しているのはおかしいと思う。影響が半径4kmと設定して調査するならば、そもそも、もっと広い範囲の住民からの同意を得ることが、環境保全につながると思う。
43 大気質	142～148	へ	<p>予定地は山が近く山の高い位置に集落があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙突の高さと、煙の流れる方向、集落との位置をしっかりとらべてください。その集落の方が、煙の中で（目には見えないとしても）日常を過ごす事がくれぐれもない様に。そんなのはあまりにもかわいそうです。じりじり病気にさせるようなものです。しっかりと、しっかりと何度も何度も煙の流れる方向、高さを調べるべきです。
44 大気質・土壌汚染	144～148 168～170	コ	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌、気象の調査地点に市内各水道の水源地の背後の森林地帯を含めること。
45 大気質・土壌汚染	144～148 168～170	ホ	<p>重金属の追加</p> <p>現在、わが国では大気環境基準には重金属は定められていない。排出基準にはカドミウムと鉛があるがごみ焼却炉は規制の対象になっていない。土壌の環境基準では、カドミウム、鉛、六価クロム、総水銀、アルキル水銀、銅が入っている。</p> <p>EUでは環境負荷物質としてカドミウム、水銀、鉛、六価クロムについて自動車(ELV指令)や電気・電子機器(RoHS指令)に使用する材料や部品に含まれる濃度を基準値以下にするよう規制されている。国内ではまだ法制化されていないが、海外に輸出しているメーカーはこの規制に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重金属は従来から指摘されて問題でもあり、焼却場が稼働する頃には何らかの規制が行われることも考えられる。大気質および土壌汚染の調査項目にカドミウム、水銀、鉛、六価クロムを含めて評価することを提案する。 <p>ごみの分別が進んでいるから、排ガス処理装置で除去されるから心配ないとかいわれているが、実際にデータで示すことが肝要である。特に今回の計画では掘り起しごみと下水汚泥が対象になっているので重金属が懸念される。</p>
46 大気質・土壌汚染	144～148 168～170	セ	<p>候補地にあがった最初の説明会（H20.5.1or2日桜井公民館）で上伊那広域の説明は出ているのは水蒸気であってダイオキシン、重金属類は出ないとはっきり説明した。それが、国の基準の範囲内であると説明が変わってきている。</p> <p>環境アセスメントについても、天伯社付近の候補地が本当に適地かどうかを含めてよく環境を調査するというように解釈できる説明だったが、現在の汚染状況を調査して建設後にはどのように変化するかを指標にすぎない、環境アセスメント内容だという印象である。</p> <p>アセスメント同意にあたってまずは、環境を徹底的に調査してもらえばよいという思いで同意していた人も何人もいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気・土壌とも調査地点を大幅に増やして、細かい調査を要望する。大気・土壌ともに半径4km地点まで調査範囲を拡大してほしい。土壌とともに大気の調査も重要視してほしい。 <p>※滞留せず安全のためには希釈されることが大切といわれるが 希釈されやすい地形かがきちんとわかる調査をするためにも調査地点を大幅に増やす。</p> <p>※希釈されやすいかどうか</p> <p>平均気温での調査ではなく最低気温・最高気温など温度変化によっても大気・気流の流れが変わってくるのではないかと。平均気温で調査するのではなく、春夏秋冬 季節と温度変化による細かく調査して季節と気温変化によって変わるだろう風向風速滞留状態を調査してほしい。</p>

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
47	大気質・土壌汚染	144～148 168～170	フ	・方法書144ページで環境大気（気象を含む）、168ページで土壌汚染の調査地域は、対象事業実施区域から半径約4kmの範囲となっているが、「伊那清掃センター」の建設時の環境影響調査では半径5kmであった。今回は周辺の地形も以前より複雑であり最低でも調査地域を半径5kmとする。
48	大気質 騒音・振動	144～148 149～154	タ	・搬入路についての車の量や搬入経路が安全性や排気ガスなど、どのくらい環境へ与えるものなのか調査をしていただきたい。
49	大気質 騒音・振動	144～148 149～154	ニ	・搬入路は、毎日大変な交通量になり排ガスの問題が、増大すると思いますから、どの様な対策をたてているのでしょうか？
50	大気質 騒音・振動	144～148 149～154	へ	・焼却場を行き来するトラックの台数、ルートが環境にとって悪影響はないのかを検証してください。 ・そのルートや台数を事前にそのルートとなる全ての住民に説明してください。
51	騒音・振動	149～154	キ	搬入路のアシスメント ・搬入路を明確にし交通量により生ずる騒音、臭気、排ガスについて調べる。
52	騒音・振動	149～154	ケ	市・広域連合の見解では工事関係車輛及びゴミ収集車輛等の主要運行ルートを三峰川右岸道路を想定しているようだが、これからの広域各地での話し合いの過程でそれ以外の既存の道路に新たに運行ルートが設定される懸念がある。その場合、安易な考えから例えば西伊那線・上大島上下線（通称 城坂）を運行ルートに加えると言うことにはならないだろうか？ このことを予想するとき、対岸の押出沿道住居付近と異なる観点から上大島諏訪神社付近に騒音・振動調査地点を設ける必要があると思う。
53	水象	165～167	エ	・地下水への影響→他地区のデータを示してほしい。
54	土壌汚染	168～170	サ	P168 土壌汚染の調査について、方法書では、全項目を調査するのは、候補地のみとなっています。 私は、周辺でカドミウムや鉛・総水銀の土壌調査を行う4地点でも、環境基準に定める全項目の土壌調査を行うべきと考えます。 なぜなら、ごみ中間処理施設から出る飛灰には、カドミウム・鉛・総水銀以外のヒ素などの有害物質も検出されています。ですから、将来、煙突からの排ガスにより周辺に影響が出ているかどうかを調査したときに、元々からあったものか、排ガスにより増えたものかは、事前に調べておかないとわかりません。 上伊那地方には、もともとヒ素などを含む土壌がある場所があります。
55	土壌汚染	168～170	シ	「我が国には重金属の排ガス基準がないものの、欧米諸国の基準を参考に安全な施設を計画」していただくという説明をしていただいた。 上伊那広域連合から頂いた資料によると、約150トンのゴミを24時間燃やすと約100万立米の排ガスが出てくるとのことで、排ガス中に含まれる重金属の砒素の測定最大値は0.29mg/立米となっていた。この濃度は計画の施設で24時間出続けたとすると1日で290gの砒素を施設周辺にまき散らすことになる。さらに欧米基準値以下の0.01mg/立米という濃度であっても、1日当たり10g、1年で3.65kg、20年で73kgもの重金属等が本来まき散らさなくても良いこの地へ集中散布することになるとおもわれる。 不安の多い、重金属の調査項目に砒素を加え、最低でも砒素・水銀・カドミウム・鉛の調査とし、専門家の見識で他の重金属の調査の必要性の有無についても検討していただきたい。さらにダイオキシン類の土壌調査と同様に、より広範囲での土壌調査の実施をダイオキシン類調査と同地点で抱き合わせて実施することを強く求めます。 「分別を徹底して重金属類はほとんど含まれない」との説明があった、新施設で焼却予定となっている、現クリーンセンターの埋め立てゴミや焼却灰・下水汚泥・中央病院からのゴミに含まれる重金属とダイオキシン類の成分量についてもこの環境アセスでしっかりと調査し、公表していただきたい。
56	土壌汚染	168～170	ク	前述の(25)と同様土壌汚染についても、少なくとも上、中、下段にそれぞれ1地点増やしていただきたい。また、⑦～⑮地点はダイオキシン類だけの調査なので、これらの地点もカドミウム、鉛、総水銀を加えて調査していただきたい。
57	土壌汚染	168～170	セ	重金属の調査項目に「ヒ素」を加えてすべての重金属について調査してほしい。 「メチル基」は世代連鎖して遺伝子に関係するといわれている。「メチル基」を含む物質についても調査項目に加えてほしい。
58	土壌汚染	168～170	ト	ダイオキシンの土壌汚染について 現在4地点を想定している場所は、候補地から2km前後。影響は広範囲に及ぶと思われるので対岸の美篤小学校はじめ調査の範囲をのばして欲しい。
59	土壌汚染	168～170	フ	方法書11ページによると、ダイオキシン類の発生を抑制するため炉内は800℃以上の高温に保って燃焼するとあるが、そのためごみに含まれる重金属類が気化されると思われる。これを完全にバグフィルターなどで除去するのは困難といわれている。手良中坪地区も含めて全地点で環境基準に定める全項目の土壌調査を行う。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
60	土壌汚染	168～170	ニ	土壌汚染は、永年の積みかさねで、重大な問題を引きおこすと思いますが、今の数値ではなく、経年の類値をシュミレーションしてほしいと思います。
61	土壌汚染	168～170	ヘ	<環境影響評価の時に考慮にに入れてほしい事> <既に伊那市に建設予定の焼却施設のある場所での正確な調査結果をよく調べて下さい。病気の発生率なども。なぜなら、重金属、もちろんダイオキシンも空中での濃度は薄くても地上に落ちればそこに溜まり蓄積して行く事になります>
62	土壌汚染	168～170	ハ	土壌調査地点を多くしたのは評価できるが（煙の最大着地地点が2km前後と一般的には考えられているとのことだが）今回のような複雑な地形の場所では最大着地点がどのくらいになるのか全く、わからないのではないかと。実際に、現地で煙突の高さから煙を発生させてその煙がどういう濃度でうすめられていくのか、どの場所で滞留するのかを、何回も濃度を測定して検証しないと、最大着地点はわからない。まず先にそのようなテストを行ない、その場所、その地形での煙の最大着地点を予想し、その場所の土壌調査を実施してもらいたい。 （※最大着地点2kmというのは、ほとんど風がなく煙突の煙が真上に登っている時の煙の着地点であると聞いたことがあるが、もしそうだとすると自然の中では常に風がふいており、複雑な地形をしている場所では、全く意味のない数字となる。）
63	土壌汚染	168～170	ヒ	土壌汚染(ダイオキシン類)調査について 現在4地点を想定されているようですが、いずれも候補地から2k前後です。影響はもっと遠くまで及びますので広範囲の調査をお願いしたい。全国各地で松葉を使ったダイオキシン調査が行われています。比較的費用もかからないとのことですので候補地から4kを目安に富県(西部)、富県(東部)、手良、高遠地区の山林の松葉を使ったダイオキシン現況調査をお願いします。
64	植物	173～175	セ	「川下り米」米の汚染影響を継続的に調査してほしい。
65	植物 動物	173～175 176～177	コ	植物、動物の調査には在野の研究団体、（野鳥の会、山野草の会等）信州大学農学部等を網羅した調査団を組織すること。
66	植物 動物	173～175 176～177	ウ	動植物調査について200mのはんいだけでなく廃出物着地予想はん囲はすべてやってほしい。
67	植物 動物	173～175 176～177	エ	動植物に関する調査を広範囲にしてください。200mは少なすぎる。
68	植物 動物	173～175 176～177	オ	昆虫などではないので動物などの調査で200mでは、範囲がせますぎると思います。もっと広げ、せめてkmの単位で調査を希望します。
69	植物 動物	173～175 176～177	ク	動植物調査が200m以内ということであるが、排ガスの噴出、機械類の騒音、大きな建物等を考えると少なく、500m程度が適当であると考え、要望する。
70	植物 動物	173～175 176～177	ネ	動植物の調査が周辺200mということはせますぎるのではないかと。 59mの高さのある排気筒からの排気は風などにより思いもよらない距離まで達することが考えられる。
71	植物 動物	173～175 176～177	ツ	動植物の調査で、年4回の調査は特徴のある動植物が最もよく見られる時期に行う、ということで通常この回数で行っている、と説明会で説明されたが、この周辺で見られるという、動物ではオオタカやカワセミ、カヤネズミをはじめとする希少動物がいるという報告があり、マツタケの産地でもある。このような貴重な動植物の生態が、四季に1回ずつの調査できちんと把握できるとは考えにくい。もしも年4回、という回数をどうしても増やせないのであれば、住民による自主アセスの結果も取り入れて欲しい。また、アセスメントに住民参加も取り入れて欲しい。今までこの回数で他の施設も行って来た、という理由だけで、この回数を決めるのはおかしいと思う。
72	植物 動物	173～175 176～177	サ	方法書 P175（植物）P176（動物）について 方法書では、候補地の周辺200mを調査するといいますが、工事用の車両などが通過する範囲はそれよりも広いと考えますので、調査範囲を候補地の周辺500mに広げるべきと考えます。 なぜなら、候補地の周辺では、ヤマネズミが生息しているといいますが（〇〇市在住の***の教師であるA先生の話）。 また、上山田の下段には、蛍の生息が確認されています（旧高遠町の調査）。そのほか、新山地区では、ハッチョウトンボを保護しています。県の調査では、高遠にオオタカが生息しているというものも出ています。 候補地周辺には、このような、貴重な自然が残されている可能性があると思いますので、調査範囲を周辺500mに広げるべきと考えます。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容
73	植物 動物	173～175 176～177	ヌ	対象区域外の動植物への調査をふやしてほしい。山の多い地区にも多くの耕作地があり野菜づくりで生計をたてている住民もおり作物は、多数の人々が食するのですが土じょう汚染が進むことがあれば出荷野菜作りは出来なくなってしまいます。松茸山も多く松茸栽培を長年研究し成果をあげている人もいます。ハッチョウトンボと云う本当に小さいきれいなトンボの生息地として知られているのですが他にも多くの昆虫類がいる所なのです。方法書の調査内容だけでは少なすぎると思います。私は標高900mの山間に住んでいますが夏の猛暑からも山は守ってくれました。自然の動植物へのダイオキシン類、その他の有害物質の害はないかどうかの調査もしっかりしてほしい。5年後10年後はどうなるか、と考えると心配です。
74	植物 動物 生態系	173～175 176～177 178	ニ	生態系への問題点、伊那谷の自然である植物、動物、特に八丁トンボの生息地松茸の栽培で有名な上新山地区に対する調査をしっかりと、継続して、おこなってほしい。
75	動物	176～177	セ	カワセミ、オオタカ、笹ネズミなどの生態系は半径200mではなく少なくとも半径2km地点まで拡大して調査してほしい。
76	動物	176～177	タ	予定地の近くに生息するといわれている「カヤネズミ」などの希少動物について大丈夫なのか、そのことをしっかりと専門家の意見もとり入れ調査をしていただきたい。
77	動物	176～177	ナ	方法書の説明会に参加させていただきました。そこで出された意見を検討していただいてうれしかったです。とりわけ調査地点に新山小学校を加えていただいたことはうれしかったです。どうか新山ハッチョウトンボの生息地も加えて下さい。ハッチョウトンボはとてもデリケートな新山で唯一の観光となる貴重な生物です。どうしても、ここも調査地点に加えてほしいです。私は365日をここで暮しています。できれば365日の調査を希望したいくらいです。せめて春夏秋冬に各3回くらいの調査をしていただかないととても心配です。
78	景観	179～181	ウ	景観シュミレーションについて誰が評価するのか明確にして下さい。 ・二つのアルプスと三峯川、天竜川の景観は誰が感動して観てくれるのか、この地域の者だけのものではないと思う。

その他

	項目	頁	意見者	意見の内容
1			ア	今回の質問意見については公開し必ず回答して下さい。
2			エ	意見に対しての反答の公開をお願いします。
3			カ	交通量が増えることにより確実に事故の確率が増え同時に排ガスによる環境汚染が懸念される。
4			カ	見切り発車で何か問題が起きてから対処するのでは遅すぎる。近隣住民に健康被害が出て病院にかかれば医療費は更に重み、伊那市の予算は大幅にオーバー。又今以上の治療を中央病院で対応できるのか？
5			カ	幾ら微量と言えどもダイオキシンや重金属物質の体内蓄積により、将来的には各種がん患者が増え、これからの子供達のホルモン錯乱、奇形や障害をもった子が生まれる確率が高くなる。その際伊那市はどうやって責任をとるのか？ このような点から早急な建設は危ぶまれる。もっと丁寧な時間を掛けた調査。しいては全住民の投票を実施すべきだと思います。（半径4km以内の人全て）
6			キ	方法書に対する環境保全上の意見 上原地区は建設予定地の対岸に位置しているために（600～800m）健康被害等の発生を危惧する声が出ていました 選定委員会で天伯が候補地を選択した後に上原区は臨時総会を開き天伯焼却場への建設反対の決議をしました（平成9年5月11日）ごみを焼却することに反対の立場ではありません 上伊那中のごみを1ヶ所へ集めて焼却することに反対なのです 焼却場を建設するに当たって解決しなければならない問題があります
7			キ	各部門に市民の代表を入れること
8			エ	汚泥、掘おこし残渣、医療系排棄物燃焼の場合の重金属発生の危険は予測するしかないと思われませんが同規模の施設のデータを示してほしい。
9			コ	八乙女の残渣、下水道汚泥、の分析の結果を公表すること。
10			ホ	ごみ質の分析 前項（第3章の45）とも関連するが、いわゆる組成分析とは別に元素分析を行う。
11			コ	病院より出る焼却予定のごみの内容物を調査すること。
12			コ	各調査の中間発表をすること。
13			コ	環境影響評価をする目的が書かれていない。必要性が書かれているにすぎない。
14			セ	「天伯社」は洪水を修めるための「社」だった。それだけ洪水の起こりやすい地点（予定地）である。直近ではH18年の災害があった。目の前の「社」を「社」としてどう保護していくのか。
15			へ	建設予定地に地元の神様”天伯社”がありますが、それを移動させるのでしょうか？この場所は昔から大変大切にされている場所と聞いていますが・・・
16			セ	半径4km以内の地域住民の健康調査を継続的に行ってほしい。また遺伝子や奇形など次世代まで渡る長期健康調査を希望する。

その他

項目	頁	意見者	意見の内容
17		ツ	③ ごみ処理場近くの住民には、アトピーやうつ病、癌、喘息などの症状を持つ割合が増える、と聞いている。それは特に子どもへの影響が大きいということで、心配している。動植物や大気だけではなく、周辺住民の健康の現況調査も行ってほしい。建設前の数値がなければ、建設後の健康状態の因果関係が分からないと思う。
18		ヌ	方法書についてではないのですが、アセスメントを行なうのとあわせて広域全部のゴミの分別の指導をやってもらいたいと思います。やはりもやしてはいけないものともやしても安全なものもしっかり分別する事が基本と思うからです。リサイクル等もしっかりとして高温で何でももやしてしまえると云う考えの人が少しでも少なくなる事で焼却ゴミの減量が出来ると思います。
19		ノ	添付した方法書準備段階で出された貴重な地元住民の意見書86通と見解についても参照されて評価いただきたい。事前に意見を聞いた点は評価しますが、方法書縦覧期間に出された意見でなければ提出しないとのことで、私の意見として添付します。
20		ヒ	実際設備もなく稼動していない物をどこまで、正確にアセスできるのかが疑問です。 各アセス項目の調査方法の予測基準が具体的に示されていないので、私達市民には、真偽の程が判断できません。 例えば、生態系の予測をどこの類似例と比較するのか、結果は、いかようにもコントロールできそうな気がします。 欧州では、疑わしきは避けるという予防原則が浸透しています。 じっくり4年～5年の歳月をかけ、季節や気象状況の様々な状況を想定して判断してください。
21		ヒ	環境影響評価とは、意見がずれますが、稼動した場合のランニングコスト、メンテナンスコスト、等の経費総額と他の先進地区のようにゴミゼロを目指したごみ減量をした場合の経費総額の比較が知りたいです。
22		ハ	建設予定地が、富県の桜井区・北新区であることから（地籍）、煙の最大着地点と予想されているみすず地区（上大島・上原・中県・下県・上川手・末広等）、また高遠地区（上山田・下山田地区）が、当該区ではなく、このため同意も必要ないとのこと。一番影響が大きいと考えられているのに同意が不要というのはどう考えても不合理。
23		へ	本当に私達はゴミを減らす努力を本気でしているのでしょうか？ 大型ゴミ焼却場がまったくダイオキシンを出さないという事はないという事は証明されています。 上伊那中から集められたゴミから出るダイオキシンは伊那の土壌に蓄積されていくのです。 私はその事が悲しくて悲しくて仕方がないのです。 豊かな田畑が、高遠桜の咲く土地が、長い年月をかけて、少しずつすこしずつダイオキシンの貯蔵庫になっていく訳です。 この選択は本当にベストなのでしょうか？ その前にやれる事が私達市民にはあるのではないのでしょうか？ そしてそのリーダーシップをとるのが、広域連合であり、伊那市長であるはずだと私は思うのです。 子供を育てている私は心から大人の正しい選択を願います。 よろしくおねがい致します。 共に、うつくしく、全国に誇れる伊那谷の未来をつくりましょう。
24		ホ	全体として記述が概略的、定性的なきらいがある。これから実施するアセスメントの基本となるものであるから、基礎となる、あるいは基準となる事項、数値を明記し、その根拠を示すことが重要である。長野県環境影響評価技術指針マニュアルでは「方法書は、環境影響評価実施計画が適切であるかどうか住民等の意見を求めるためのものであることから、単に地域の概況に係る情報を列挙してもいみはなく、項目や手法の選定の根拠が住民等に理解されるよう、理論的かつわかりやすく記述する必要がある。」と述べている。
25		ホ	環境影響評価の進め方についての記述がない。例えば、広域連合内の担当部署、委員会等の設置の有無、調査の委託先などについて。

第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

番号	項目	頁	意見者	意見の内容
52	騒音・振動	149～154	ケ	※添付地図

